

## 「青い羽根募金」へのご協力のお願について

公益社団法人 日本水難救済会

会長 相原 力



謹啓 初夏の候ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日本水難救済会の事業につきましては、平素から格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

明治22（1889）年に設立されました大日本帝国水難救済会を前身とする公益社団法人日本水難救済会は、日本の沿岸海域で遭難した人々の救助を行う民間のボランティア団体で、別添のパンフレットに記載している様々な活動をしています。

現在、全国の沿岸に783か所の救難所および534か所の救難支所を設置して、約5万3千人のボランティアの救助員が、海難発生時には仕事を中断するなどして、身の危険をも顧みず海難救助のため活動し、平成27年においては、全国で278名、143隻を救助した実績をあげています。

海難救助活動は、厳しい自然環境の中で行われることが多いため、組織的な訓練が欠かせない他、各種の救助器材、そして救助船の燃料などが必要で、それらの活動資金の安定確保が求められています。

このため、公益社団法人日本水難救済会は、これらの資金を確保するため「青い羽根募金」を行い、広く国民の皆様からのご寄附をお願いし、集まった寄附金は、青い羽根募金運営協議会の審議を経て、救助員の活動を支えるための経費として、計画的に活用しているところでございます。

つきましては、本年も7月18日「海の日」を中心に7月及び8月を「青い羽根募金強調運動期間」として全国的に募金活動を展開いたしますので、何卒ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬白



青い羽根 生命を守るその一本





## 青い羽根募金事業趣意書

海で遭難した人々の救助を行うボランティア活動を支援する団体、それが公益社団法人日本水難救済会（マリンレスキュージャパン）です。

明治22年設立以来127年の間に救助した人命は196,169人、救助した船舶は39,884隻を数えています。（平成27年末現在）。

現在、全国津々浦々に設置された合計1,317ヶ所の救難所・支所に所属しているボランティア救助員約5万3千人は、漁業や会社員などの職業を持った方々で、海難救助に向かう時は、身を危険にさらしながら人命救助を行っています。

公益社団法人日本水難救済会はこのようなボランティアを支援して、海の犠牲者ゼロを目指して活動を続けている団体です。

海難救助は、厳しい条件の中で行われるため、安全かつ迅速な救助活動を行うことができるよう救助員は、常日頃から組織的な訓練を行うとともに、ライフジャケット、ロープ等の救助資機材の整備も必要です。さらに、救助船の燃料等も必要となります。

このため日本水難救済会は、その活動資金を確保するため毎年、青い羽根募金活動を行い、広く国民の皆様からのご寄附をお願いしております。

いただいた寄附金は部外の有識者にも参画いただいている運営協議会の審議を経て、計画的かつ有意義に活用されています。

青い羽根募金活動は周年行われていますが、本年も7月18日「海の日」を中心に7、8月を強調運動期間として全国的に募金活動を展開いたします。

海の犠牲者の皆無を目指して活動している公益社団法人日本水難救済会の事業に深いご理解とご支援をお願い致します。

なお、公益社団法人日本水難救済会は、所得税法及び法人税法に基づく「特定公益増進法人」であることから、青い羽根募金は、個人では所得控除又は寄附金特別控除（税額控除）が、また、法人では損金算入が認められます。



青い羽根 生命を守るその一本

公益社団法人 日本水難救済会

会長 相原

